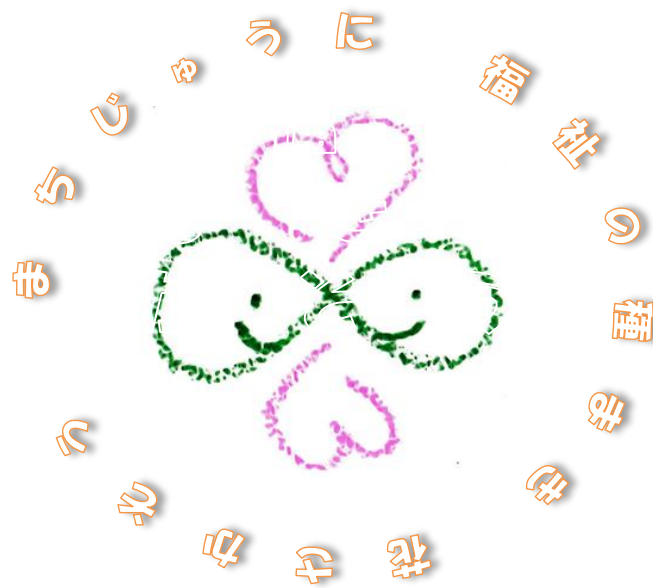


平成 29 年度

事業報告書



おわせ社協ロゴマーク

“わごころ”

社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが
安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I. 企画調整部門

1. 総務・福祉係.....	1
----------------	---

II. 総合相談・支援部門

1. 生活支援係.....	16
2. 地域包括支援センター.....	20
3. 紀北地域障がい者総合相談支援センター.....	27

III. 介護サービス部門

1. 介護事務.....	37
2. 居宅介護支援事業所.....	38
3. 訪問介護事業所.....	41
4. 訪問入浴事業所.....	44
5. 尾鷲通所介護事業所.....	45
6. 輪内通所介護事業所.....	47

IV. 輪内高齢者サービスセンター

1. 輪内高齢者サービスセンター.....	49
-----------------------	----

I. 企画調整部門

1. 総務・福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 平成29年6月8日 出席者 14名

- 議題
- ・平成28年度事業報告書(案)について
 - ・平成28年度決算報告書(案)について
 - ・平成29年度第1回補正予算書(案)について
 - ・平成29年度第1回評議員会の開催について

報告 ・第2回理事会の開催について

第2回 平成29年6月22日 出席者 14名

- 議題
- ・会長の選任について
 - ・副会長の選任について
 - ・常務理事の選任について
 - ・苦情解決事業第三者委員の委嘱(案)について

報告 ・社会福祉充実残額について

- ・尾鷲市による社会福祉法人指導監査の結果について
- ・議事録署名人の印鑑証明取得の必要について

第3回 平成29年12月14日 出席者 13名

議題 ・平成29年度第2回補正予算書(案)について

報告 ・「職員給与規程」の一部変更について

- ・「嘱託職員の雇用等に関する就業規則」の一部変更について
- ・日額・時給等職員の雇用等に関する就業規則」の一部変更について
- ・「育児・介護休業等に関する規則」の全文改定について
- ・評議員の一部変更について
- ・「マイクロバス運用要綱及び内規」の一部変更について
- ・「尾鷲よいとこやーやにゃんキャラクターデザイン使用規定」及び「尾鷲よいとこやーやにゃん着ぐるみ貸出規定」の一部変更について
- ・「デイサービスいきいき」出来事に関する謝罪について
- ・平成29年度第2回評議員会の開催について

第4回 平成30年3月15日 出席者 8名

- 議題 ・ 平成29年度第3回補正予算書(案)について
・ 平成30年度事業計画書(案)について
・ 平成30年度当初予算書(案)について
・ 経理規程の変更について
・ 評議員選任候補者の推薦について
・ 平成29年度第3回評議員会の開催について

- 報告 ・ 次回の理事会について
・ 理事の退任について
・ 「職員就業規則」の一部変更について
・ 「職員給与規程」の一部変更について
・ 「嘱託職員の雇用等に関する就業規則」の一部変更について
・ 「日額・時給等職員の雇用等に関する就業規則」の一部変更について

第5回 平成30年3月26日 出席者 12名

- 議題 ・ 定款の変更について

(2) 評議員会

第1回 平成29年6月22日 出席者 29名

- 議題 ・ 平成28年度事業報告書(案)について
・ 平成28年度決算報告書(案)について
・ 平成29年度第1回補正予算書(案)について
・ 理事・監事の選任(案)について

- 報告 ・ 社会福祉充実残額について

第2回 平成29年12月21日 出席者 27名

- 議題 ・ 平成29年度第2回補正予算書(案)について

- 報告 ・ 「マイクロバス運用要綱及び内規」の一部変更について
・ 「尾鷲よいとこヤーヤにゃんキャラクターデザイン使用規定」及び「尾鷲よいとこヤーヤにゃん着ぐるみ貸出規定」の一部変更について

第3回 平成30年3月23日 出席者 32名

- 議題 ・ 定款の変更について
・ 平成29年度第3回補正予算書(案)について
・ 平成30年度事業計画書(案)について
・ 平成30年度当初予算書(案)について

- 報告 ・ 次回の評議員会について
- ・ 評議員の退任について

(3) 監事監査

- ① 平成 29 年 5 月 22・23 日 監事 2 名
 - ・ 平成 28 年度の事業及び決算についての監査
- ② 平成 29 年 12 月 6 日 監事 2 名
 - ・ 平成 29 年度 4 月～9 月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 平成 30 年 2 月 8 日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

平成 30 年度事業強化に備え、採用試験・登用試験を行った。

- ・ 採用者数 正規職員 5 名、嘱託職員 2 名
- ・ 登用者数 正規職員 1 名

(平成 29 年度退職者 正規職員 2 名、嘱託職員 5 名)

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

- ① 資格取得の状況 社会福祉士 1 名
- ② 研修会への参加と開催

県社協の実施する役職員セミナーや専門、職種別研修会に積極的に参加した。社会福祉従事者としての自覚、使命感を育て問題解決能力を養うための自己啓発の促進として、下記の経験や役職に応じた体系的な研修に参加した。

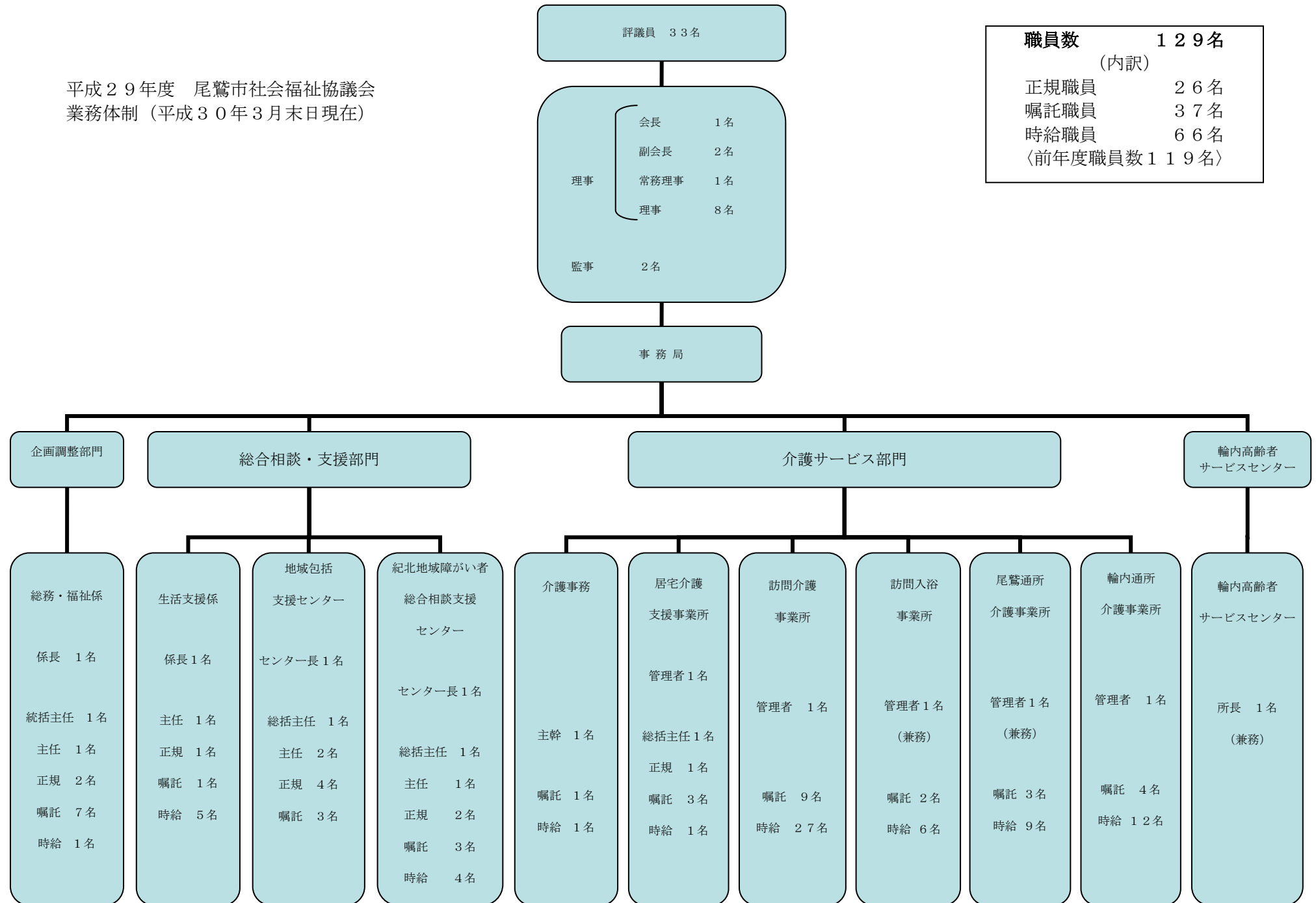
- ・ 新任職員研修Ⅰ 4 名
- ・ 新任職員研修Ⅱ 1 名
- ・ 中堅職員研修Ⅲ 1 名
- ・ 中堅職員コース 2 名
- ・ 指導的職員研修 1 名
- ・ チームリーダーコース 1 名
- ・ 管理職員コース 1 名

(3) 活動基盤の改善・充実

- ① 会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により高まる会計・税務の専門性に対応するため、税理士法人と顧問契約を締結した

平成29年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制（平成30年3月末日現在）



3. 地域福祉財源の確保

(1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保

(2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】 一般預託	22 件	391,574 円
指定預託	3 件	200,000 円
合 計	25 件	591,574 円

※前年度合計 18 件 814,855 円

【物品】 車椅子、切手（2 件 29,935 円相当）、
テレホンカード（1 件 22,500 円相当）

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ連合会活動の支援

28 クラブ・会員数 1,366 名

② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

12 講座 3,508 名（前年度 10 講座 3,636 名）

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式（尾鷲市との共催）

開催日：平成 29 年 5 月 28 日

場 所：尾鷲市民文化会館

参列者：250 名

5. 苦情解決事業の推進

苦情解決体制の一層の充実を図り、第三者委員をはじめ地域住民からの苦情を汲み上げるとともに、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制の構築

苦情解決責任者 事務局長

苦情受付担当者 総務・福祉係長
 第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情総数

(単位：件)

苦情の内容	平成 29 年度	前年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動・交通マナー・施設管理)	2	1
本会以外への苦情等	0	0
合計	2	1

6. 尾鷲市福祉保健センターの管理運営

福祉・保健活動の拠点として研修会や交流、市民の社会参加の場として市民が利用しやすい環境を整備し、管理運営を適切に行った。

(1) 年間利用実績

- ・延べ利用回数 3,411 回（前年度 3,024 回）
- ・延べ利用者数 59,669 人（前年度 58,717 人）

(2) 防火訓練の実施

内 容：避難誘導訓練、通報訓練、初期消火訓練

実施日：①平成 29 年 9 月 25 日

②平成 30 年 3 月 5 日

7. マイクロバス貸し出し事業

マイクロバスを貸し出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体：24 団体（前年度 11 団体）

利用回数：延べ 44 回（前年度 延べ 18 回）



8. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベントに出演した。

出演回数：8 回（前年度 30 回）

(2) 貸出

着ぐるみの貸し出しを行った。貸出回数：11 回（前年度 3 回）

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数：9 件（前年度 8 件）

9. 小地域福祉活動

(1) 地区福祉委員会の活動支援

① 代表者会議の開催

地区福祉委員会同士の情報交換をはじめ、活動上の課題や成果などについて話し合う代表者による懇談会を開催した。

開催日：平成 29 年 8 月 25 日

場 所：尾鷲市福祉保健センター

内 容：平成 28 年度『地域における支えあい活動セミナー』参加後の発展紹介、マイクロバス利用案内、各事業紹介とグループワークを通じた意見交換会ほか

参加者：16 名

② 交流会・勉強会の開催

地域生活課題への気づき、地域で考え、支え合いによる地域共生社会の実現を目指し、地区支援者である地区福祉委員会の交流会・意見交換会を実施した。

開催日：平成 30 年 2 月 22 日（木）

場 所：尾鷲市福祉保健センター

内 容：『認知症サポーター養成講座』

講 師：尾鷲市地域包括支援センター 吉澤由佳里・小倉あずさ

・代表地区（新田・三木里・倉ノ谷）による活動発表会

・意見交換会

参加者：39 名

③ 視察研修の開催

三重県社会福祉協議会主催の『地域における支えあい活動セミナー』に参加した。県内市町において地域支援の活動をしている団体がそれぞれの活動内容を発表、参加者は各々に興味のある発表を聴講した。

開催日：平成 30 年 3 月 8 日

場 所：三重県総合文化センター

内 容：地域支援活動の発表聴講

参加者：各地区福祉委員 10 名



- ④ 地区福祉活動広報誌「地区福祉委員会だより」発刊（不定期）
地区福祉委員会の目的の再確認や活動紹介など、委員会への情報発信として広報誌を発刊した。
- ⑤ 助成金の交付
地域福祉の増進を目指し、地区福祉委員会の活動継続を促進するため 18 地区に助成金を交付した。
 (ア) 基本助成：1 地区 2 万円を上限に 36 万円
 (イ) 活動助成：前年度募集の賛助会費の 50%として 687,000 円
 (ウ) 事業助成：あったかふれあい訪問活動、高齢者ふれあいサロン、世代間交流の実績に基づき 1,962,400 円

10. ボランティア・市民活動センター事業

- (1) ボランティア・市民活動センターの効果的な運営
 - ① 市内ボランティア・市民活動団体への情報提供
 - ② コーディネーターによるボランティア相談支援
 - (ア) 個人 3 名
 - ・ ほのぼのサロン補助ボランティア
 - ・ 子どもとの触れ合いボランティア
 - ・ ホスピタルライブ（入所施設における音楽演奏）
 - (イ) 企業 2 社
 - ・ 明治安田生命保険相互会社 認知症サポーター養成講座への紹介
 - ・ リコージャパン株式会社尾鷲事業所 車椅子の点検・清掃
 - ③ 尾鷲市ふれあいスポレク祭 2017 への協力要請
開催日：平成 29 年 10 月 14 日
場 所：尾鷲市体育文化会館
協 力：ボランティア 15 団体 57 名、福祉協力校 7 校 47 名
 - ④ ボランティア活動保険および行事用保険加入手続きと保険料の一部助成
 - ・ ボランティア活動保険 加入件数 766 件
 - ・ ボランティア行事用保険 18 団体、延べ 85 事業開催
 - ⑤ ボランティアグループの活動増進のために助成した。
 - ・ 2 万円を上限に 13 団体 26 万円

(2) 災害ボランティアセンター事業

- ① 災害時の助け合いのしくみづくりのための人材育成
 - (ア) 第Ⅱ期災害ボランティアコーディネーター養成講座の開催
《基礎編》
「災害ボランティアセンターおよびボランティア活動について」
開催日：平成 29 年 6 月 17 日、7 月 8 日、9 月 16 日
修了者：18 名

《実践編》

・『避難所支援に必要な知識』

開催日：平成 29 年 10 月 7 日

参加者：22 名（一般：9 名 職員：13 名）

・『水害時のボランティアコーディネートに必要な知識』

開催日：平成 29 年 10 月 14 日

参加者：28 名（一般：13 名 職員：15 名）

・災害ボランティアセンター設置運営訓練

実践編の集大成として設置運営訓練に参加

実施日：平成 29 年 11 月 5 日（巨大津波対処関係機関訓練）

参加者：20 名（一般：5 名 職員：15 名）

会 場：尾鷲市林町 瀬木山第 4 岸壁付近



養成講座の様子



設置運営訓練

② 災害ボランティアに関する啓発

（ア）尾鷲市ちびっこ防災フェアへの出展

開催日：平成 29 年 5 月 5 日

会 場：県立熊野古道センター駐車場

内 容：災害時のボランティア活動について

（イ）輪内中学校防災教育への出展

開催日：平成 29 年 11 月 18 日

会 場：輪内中学校

内 容：災害時のボランティア活動について



③ 災害ボランティア活動派遣

台風 21 号被害によるボランティア活動として、ボランティアコーディネーター養成講座修了生に参加を呼びかけ、ボランティアを派遣した。

（派遣場所） 伊勢市災害ボランティアセンター

（活動者） 平成 29 年 10 月 26 日 職員 3 名

平成 29 年 10 月 27 日 講座修了生 1 名、職員 3 名

（活動内容） 家屋清掃、日赤業務支援

11. 子育て・児童福祉

(1) 子育て支援事業

各関係機関との情報共有と協働を図り、地域の子育て世代の住みやすいまちづくりを目的に実施した。

① 子育てグッズ「無料レンタル」事業

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドを貸出した。

新規貸出件数：61 件（前年度 54 件）

② 子育てグッズ「リサイクル」事業

自宅で不要になった物品の仲介を行った。

リサイクル物品提供件数：8 件（前年度 6 件）

③ 児童交流室の自由開放と子育て情報の発信を行った。

④ こどもの日すこやか事業

保育園・幼稚園児に子供の日の菓子を贈呈した。

対象児童 435 名（前年度 444 名）

⑤ 小学校卒業記念品贈呈事業

一人親家庭の小学校卒業生に卒業記念品として図書券を贈呈した。

対象児童 21 名（前年度 21 名）



12. 地域ふれあい事業（ 高齢者 ）

(1) おしゃべりほのぼのサロン

高齢者の生きがいづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを当会職員とボランティアの協力で実施した。

延べ参加人数実績

（単位：人）

地区 人数	尾鷲 (第1週)	尾鷲 (第3週)	九鬼	早田	須賀利	合計
参加人数	45	48	89	77	65	324
前年度人数	58	68	88	84	55	353

(2) 高齢者ふれあいサロン・あったかふれあい訪問活動

地区福祉委員会による地域住民主体の、仲間作り・交流の場づくりを目的とした『ふれあいサロン』や見守り活動となる『あったかふれあい訪問』、『世代間交流』への助言や活動への同行、助成金交付支援を実施した。

各地区の年間活動実績

地区福祉委員会	ふれあい訪問		ふれあいサロン		世代間交流	
	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数
三木浦	5	895	2	37	3	252
賀田	1	83	2	166	2	133
矢浜	2	378	1	26	—	—
倉ノ谷	2	151	4	84	1	40
中村町	4	336	—	—	—	—
三木里	3	257	—	—	—	—
古江	4	444	18	531	—	—
梶賀	4	200	1	20	—	—
坂場	4	304	1	10	—	—
曾根	2	86	4	172	—	—
九鬼	—	—	2	132	—	—
宮ノ上・座ノ下	2	133	5	140	4	214
泉	3	138	—	—	—	—
早田	5	234	3	70	—	—
須賀利	2	191	1	35	—	—
野地町	2	76	4	82	—	—
新田	3	243	1	29	—	—
なみき	2	444	—	—	—	—
【未結成地区】						
中川	1	100	—	—	—	—
天満ふれあい	2	87	—	—	—	—
今年度	訪問	19 地区	延べ 53 回		延べ 4,780 名	
	サロン	14 地区	延べ 49 回		延べ 1,534 名	
	世代間	4 地区	延べ 10 回		延べ 639 名	
前年度	訪問	20 地区	延べ 48 回		延べ 4,370 名	
	サロン	14 地区	延べ 41 回		延べ 1,162 名	
	世代間	3 地区	延べ 8 回		延べ 503 名	

(3) 友愛訪問活動（尾鷲市老人クラブ連合会実施主体）へ助成金を支援した。

各会長、役員、会員が高齢者等の家庭を訪問し、安否確認と日常生活について話し合った。

訪問対象者人数 400 名（前年度 540 名） 196,000 円

13. 地域ふれあい事業（ 世代間・地域交流 ）

子どもたちが心豊かに育つ一助となること、および世代間・地域交流を目的に、個人ボランティアや中高生ボランティアとともに次の事業を開催した。

(1) もちつき大会&おはなし会

開催日：平成 29 年 12 月 9 日

参加者：乳幼児・保護者・障がい者計 95 名

内 容：おはなし会

（絵本の読み聞かせ、紙芝居）

もちつき大会・育児用品の交換会

ボランティア：中学生 14 名

婦人会・一般 10 名



14. 福祉教育事業

(1) 福祉協力校の指定と助成

福祉協力校〈小学校 7 校、中学校 2 校、高校 1 校、特別支援学校 1 校〉を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った。1 校 5 万円を上限に、10 校に 50 万円を助成した。

(2) 福祉協力校との懇談

各学校を訪問し、福祉教育担当者と懇談、情報交換を行った。

(3) 福祉体験教室の開催

福祉体験教室の開催や、福祉教育授業への支援を行った。

内 容：ユニバーサルデザイン教育及び福祉保健センター見学、福祉教育授業への講師紹介、車椅子等の体験授業

実施校：尾鷲小学校、矢浜小学校、宮之上小学校、三木小学校、輪内中学校



(4) 福祉作品コンクールの実施

福祉教育の一環として、小・中学校生を対象に、福祉をテーマにした標語を募集した。福祉関係者の協力を得て審査を行った。入賞作品は尾鷲市社会福祉大会にて表彰し、福祉の啓発を行った。

15. 広報・啓発事業

(1) 尾鷲市社会福祉大会の開催（尾鷲市との共催）

尾鷲市の福祉に貢献された方を顕彰し、福祉の啓発と活動の周知を行った。

開催日：平成 29 年 11 月 25 日

場 所：尾鷲市中央公民館

参加者：約 120 名

内 容：第一部 顕彰

・尾鷲市市長表彰 3 名、2 団体

・尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 20 名

第二部 福祉作品コンクール表彰

・福祉作品コンクール（標語） 23 名

・講話『認知症を正しく理解し、やさしい街を目指して』

熊野人権擁護委員協議会 尾鷲地区部会長 川上 輝佐子氏

(2) 広報誌「おわせ社協」の発行

事業の周知と福祉の啓発を目的に、全世帯に向けた広報誌を年間 4 回（5 月・7 月・10 月・3 月）発行した。

(3) 公式ホームページのリニューアル及びツイッターアカウントの運用を開始

事業のより円滑な周知を目的に、公式ホームページのリニューアルを行った。また、10 代～20 代の若い世代への社協の周知・ボランティア活動の紹介・福祉の啓発を目的にツイッターアカウントを開設し、運用を開始した。



リニューアル後のホームページ



ツイッターの画面

16. 社協賛助会員制度

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、当会役員、民生委員児童委員、地区福祉委員会などの協力・連携により、賛助会費の募集を行い地域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位：円／件)

	平成 29 年度		前年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
賛助会員	1,461,000	1,261	1,473,000	1,383	▲12,000	▲122
特別会員	365,000	48	385,000	42	▲20,000	6
総数	1,826,000	1,309	1,858,000	1,425	▲32,000	▲116

17. 赤い羽根共同募金運動

(1) 募金運動の実施

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者の協力を得て募金活動を実施した。

① 一般募金運動（期間：平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日）

募金実績

(単位：円)

	平成 29 年度	前年度	前年比較
目標額	3,022,700	3,142,600	▲119,900
実績額	2,745,648	2,835,077	▲89,429
達成率	90.83%	90.21%	-----

募金種別による内訳

(単位：円／件)

	平成 29 年度		前年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別募金	1,701,430	3,375	1,815,435	3,945	▲114,005	▲570
法人募金	666,250	110	692,901	112	▲26,651	▲2
街頭募金	56,236	5	67,845	5	▲11,609	0
学校募金	104,105	13	60,662	8	43,443	5
職域募金	102,427	32	112,732	20	▲10,305	12
イベント募金	70,462	7	49,622	5	20,840	2
個人募金	9,918	3	13,015	4	▲3,097	▲1
その他	34,820	23	22,865	39	11,955	▲16
合 計	2,745,648	3,568	2,835,077	4,138	▲89,429	▲565

18. 日本赤十字社事業および社資増強運動（日赤募金）

(1) 社資増強運動（日赤募金）の実施

日赤奉仕団（尾鷲市連合婦人会）、自治会等の協力を得て、募金運動を実施した。

① 募金実績（平成 29 年 5 月 1 日より 1 ヶ月間実施）

	平成 29 年度	前年度	前年比較
目標額	2,830,000 円	2,904,000 円	▲74,000 円
実績額	2,437,080 円	2,576,504 円	▲139,424 円
達成率	86.1%	88.7%	―――

(2) 赤十字義援金および緊急物資の取り扱いと配布

① 国内の災害に対する義援金の募集

- ・熊本地震災害義援金 4 件 12,631 円
(累計 5,008,591 円)
- ・東日本大震災義援金 6 件 26,724 円
(累計 51,514,230 円)
- ・平成 29 年 7 月 5 日からの大雨災害義援金（九州北部豪雨）
4 件 20,115 円
- ・秋田県大雨災害義援金 1 件 10,000 円
- ・平成 29 年台風 21 号三重県災害義援金 1 件 54,450 円

② 緊急物資の配布

平成 29 年台風 21 号（10 月 21 日～22 日）における市内の床上浸水宅に緊急物資を配布した。

- ・緊急セット：床上浸水 4 件（天満浦 1 件、三木浦 2 件、曾根 1 件）



(3) 赤十字救急法講習会の開催

開催日：平成 29 年 7 月 22 日・23 日・29 日

受講者：17 名

指導者：日赤救急法指導員

(4) 日赤安全奉仕団・救急法指導員の人材確保協力

この地域における日赤救急法指導員の人材確保のため、職員に呼びかけ指導員取得の基礎となる救急法講習の受講を支援した。次年度に指導員講習を受講予定している。

受講者：1 名

II. 総合相談・支援部門

1. 生活支援係

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくり」の理念のもと、市民の困りごとに対し、各係や関係機関と連携した相談対応を行った。

(ア) 相談実績について

実相談件数：69 件（相談者の属性や内容に重複あり）

（単位：件）

属性	件数
困窮者	50
高齢者	12
障がい者	4
その他	3

（単位：件）

相談内容	件数
自立生活に関すること	16
家計管理に関すること	28
貸付に関すること	24
借金・滞納に関すること	7
成年後見制度に関すること	12
日常生活自立支援事業の利用	12
虐待・権利侵害に関すること	1
生活支援に関すること	7
地域・人間関係に関すること	2
仕事に関すること	2
その他	2

2. 生活再生相談事業

(1) 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

① 相談窓口の設置

（ア）実相談件数 : 50 件

（イ）支援計画策定件数 : 16 件

（ウ）のべ対応件数 : 488 件（支援申込み前含む）

（単位：件）

対応内容	件数
電話相談	114
訪問・同行支援	116
面談	142
所内会議	0
支援調整会議（プラン策定・評価）	23
その他関係機関との会議	6
関係機関との照会・協議	73
その他	14

② 支援体制の構築

(ア) 制度についての周知啓発

- ・ 広報紙等を活用した周知啓発
- ・ リーフレットの作成および配布
- ・ 支援関係者に向けた周知啓発

民生委員児童委員協議会定例会（平成 29 年 9 月 19 日）

(イ) 関係機関との連絡会議

- ・ ハローワーク尾鷲との連絡会議（平成 29 年 8 月 23 日）
- ・ 市関係各課との連絡会議（平成 29 年 11 月 21 日）

(ウ) 支援調整会議（開催回数：11 回）

(2) 家計相談支援事業（市受託事業）

① 相談窓口の設置

(ア) 実相談件数： 28 件

(イ) 支援計画策定件数： 16 件

② 支援体制の構築

(ア) 制度についての周知啓発

- ・ リーフレットの作成および配布
- ・ 公共サービス（電気、ガス、水道）供給事業者への訪問

(イ) 講演会の開催

- ・ ファイナンシャルプランナーを招き、子育て世代を対象とした家計管理に関する講演会を開催

開催日：平成 30 年 3 月 24 日（土）

会 場：尾鷲市福祉保健センター4 階多目的ホール

講 師：F P 事務所オーキッド代表 佐々木裕子 氏

参加人数：21 名



講演会の様子



託児コーナーを設置

(3) 被保護者就労支援事業（市受託事業）

① 就労支援員の配置

（ア）実相談件数：6 件

（イ）のべ対応件数：102 件

（ウ）対応結果

結果	件数
常勤就労	1 件
パート就労	1 件
福祉的就労	0 件

（エ）関係機関との連絡会議

- ・ ハローワーク尾鷲との連絡会議（平成 29 年 8 月 23 日）

3. 生活資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業（実施主体：三重県社会福祉協議会）の貸付状況

① 平成 29 年度中の完済件数 2 件

障がい者自動車購入費：1 件

緊急小口資金：1 件

② 平成 29 年度中の新規貸付件数 3 件

教育支援費：2 件

福祉費：1 件

③ 平成 29 年度末現在の貸付件数 20 件

教育支援費：12 件

福祉費：4 件

技能習得費：1 件

緊急小口資金：3 件

(2) 福祉金庫緊急貸付事業（当会独自事業）の貸付状況

① 平成 29 年度中の完済件数 14 件

② 平成 29 年度中の新規貸付件数 13 件

③ 平成 29 年度末の貸付件数 32 件

償還の状況	件数
平成 29 年度末貸付件数	32 件
定期的に返済している方	0 件
不定期であるが、返済をしている方	6 件
今年度全く返済実績のない方	26 件

(3) 緊急食料等支給事業

- ・ 食料・紙おむつ等を緊急に要する困窮者世帯に支給した。

支援件数 9 件

4. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業

紀北地域（尾鷲市・紀北町）を対象とする基幹的社協として、2市町の地域包括支援センター、障がい者総合相談支援センター及び関係機関と連携を取り、積極的な対応を心掛けた。利用者と信頼関係の構築を継続し、安心できる適切な金銭管理・書類預かりサービスを実施した。

平成 29 年度実績

（単位：件）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
相談件数	121	264	376	112	873	946
新規契約	2	3	5	3	13	6
解約件数	0	0	1	0	1	8

利用者数

（単位：件）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
契約件数	7	17	11	7	42	38

利用者地区

（単位：件）

	尾鷲市	紀北町	その他	合計
契約件数	20	22	0	42

(2) 法人後見・サポート事業

- ① 制度の利用に関する相談 10 件（うち申立て支援 0 件）
- ② 後見人等の受任 1 件（平成 29 年 7 月本人死亡により終了）

【受任件数】

（単位：件）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
新規受任	0	0	0	0	0	0
既受任	1	0	0	0	1	1
終了件数	1	0	0	0	1	0
累計件数	1	0	0	0	1	1

③ 運営委員会（兼権利擁護推進委員会）

開催日：平成 29 年 7 月 14 日

平成 29 年 10 月 30 日

2. 地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

(ア) 初期段階での相談対応として、本人、家族、近隣住民、地域ネットワークを通じた様々な相談を受け状況把握を行い、相談内容に応じたサービスや制度の利用支援・情報提供及び関係機関等の紹介等対応を行った。

(イ) 専門的・継続的な相談支援として、自宅への訪問や関係者からの情報提供を受け、課題を明確にして個別の支援計画を策定し適切な制度やサービスへとつなぎ評価を行った。

(単位：件)

内 訳	介護・日常生活	サービス利用	医 療	所 得	その他	苦 情	権利擁護	合 計
件 数	442	152	20	5	9	0	6	634

(前年度相談受付件数： 565 件)

② 地域包括支援センターの周知・啓発

「社協だより」への掲載 平成 29 年度 4 回 前年度 4 回

「包括だより」の発行 平成 29 年度 4 回 前年度 4 回

③ 地域ケア会議の運営

他職種協働による個別ケースの支援を通じた、地域支援ネットワークの構築、地域の自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域の課題の把握などを行った。 〈平成 29 年度 10 件 前年度 4 件〉

(2) 権利擁護業務

① 高齢者虐待への対応・防止

(ア) 高齢者虐待相談窓口の設置

尾鷲市福祉保健課と協働で高齢者虐待についての相談窓口を設置し、自宅訪問や関係者から情報を収集し、コア会議により虐待の有無や緊急性を判断し解消に向けた対応を行った。

(イ) 高齢者虐待相談の受理

平成 29 年度受理件数 9 件（うち認定 7 件：内訳重複あり）（単位：件）

内 訳	身体的	心理的	経済的	性的	介護放棄
件 数	5	1	1	0	1

(前年度虐待認定件数：1 件)

② 認知症高齢者への支援

(ア) 認知症サポーター養成講座

	開催日	参加人数	依頼先
第1回	6月5日	9名	明治安田生命
第2回	8月3日	20名	紀北信用金庫
第3回	9月6日	5名	尾鷲高等学校・家庭看護学科
第4回	9月9日	111名	尾鷲中学校2年
第5回	10月3日	28名	輪内中学校1～3年
第6回	12月12日	23名	尾鷲市社会福祉協議会
第7回	2月22日	39名	地区福祉委員会
合計		235名	

(前年度参加人数：160名)



(第2回紀北信用金庫での様子)



(第4回尾鷲中学校での様子)

(イ) 認知症地域勉強会

開催日：平成29年7月20日

参加人数：42名

場所：曾根コミュニティセンター

講師：橋爪 眞言医師



(勉強会での様子)

(ウ) 尾鷲市高齢者等 SOS ネットワーク事業への協力

徘徊や行方不明になる恐れのある認知症高齢者の情報を尾鷲市に登録し、行方不明になった場合は予め登録を行った協力団体と連携して搜索の協力を行う。

③ 福祉制度等の活用

(ア) 日常生活自立支援事業の活用

日常生活自立支援事業の利用調整（相談斡旋を含む）を行った。

(イ) 成年後見制度の活用

成年後見制度の利用援助（情報提供、申立支援、斡旋等）を行った。

④ 出前講座の開催 4回開催

開催日	内 容	参加人数	依頼先
5月17日	総合事業について	8名	生協エリア
9月12日	介護保険制度の概要 いきいき百歳体操	13名	大曽根コミュニティー センター
9月12日	介護保険制度の概要 いきいき百歳体操	8名	向井コミュニティー センター
2月8日	介護保険で利用できるサービス 転倒予防体操	13名	倉の谷サロン

(前年度開催回数：4回)



(大曽根コミュニティーセンターでの様子)



(倉の谷サロンでの様子)

(3) 包括的継続的ケアマネジメント

① 地域包括ケア会議の開催

尾鷲市から委嘱された委員により、地域の課題を把握し地域づくり・資源開発、政策形成へと繋げて、地域包括ケアシステムの構築を目指して行くための取り組みを行った。

	開催日	参加人数	内容
全体会議	6月16日	24名	委員紹介 地域支援事業について報告
全体会議	2月8日	19名	地域支援事業進捗状況と今後の予定を報告 虐待対応事例の紹介 認知症困難事例の紹介



(6月全体会議の様子)

② ケアマネジャー支援

居宅介護支援事業所連絡会議において研修会等を開催しケアマネジメント技術を高め、関係機関と連携して高齢者を支援する取り組みを行った。

居宅支援事業所連絡会議 4 回開催

	開催日	参加人数	内容
第 1 回	5 月 16 日	27 名	高齢者虐待（経済的虐待）事例をもとに高齢者虐待支援の流れ、成年後見制度、日常生活自立支援制度について理解を深める。 アドバイザー：黒 久恭氏（黒司法書士事務所）
第 2 回	8 月 25 日	26 名	①総合事業についてのお知らせ （紀北広域連合職員より） ②総合事業についての勉強会 ③ケアマネジャー同士の交流会
第 3 回	10 月 30 日	26 名	「権利擁護に関する専門職の視点」 成年後見制度活用事例の紹介等 講師：有限会社 With A Will 市川 知律氏
第 4 回 （紀北町 合同）	1 月 18 日	28 名 （尾鷲市）	在宅医療・介護連携に関する「事例検討会」 在宅事例 1 事例、グループホーム事例 1 事例 紀北医師会共催

（前年度開催回数：4 回）



（第 2 回研修会での様子）



（第 4 回事例検討会での様子）

③ 居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談に対応した。

平成 29 年度 90 件 前年度 39 件

(4) 介護予防ケアマネジメント

要支援者及び事業対象者が介護状態となることを予防し、または維持するために適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支

援を行った。

① 要支援者への介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

介護保険を申請して要支援 1、2 と認定された方

② 介護予防・生活支援サービス事業対象者への介護予防ケアマネジメント

事業に参加を希望された 65 歳以上の方で尾鷲市、地域包括支援センター等
が実施した基本チェックリストにより総合事業の対象となった方

予防プラン作成および給付管理数

(単位：件)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
介護予 防支援	自機関	117	117	112	97	83	76	
	委託	65	66	64	61	57	49	
	合計	182	183	176	158	140	125	
介護予 防ケア マネジ メント	自機関	0	3	10	14	26	37	
	委託	0	4	5	8	12	16	
	合計	0	7	15	22	38	53	
		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
介護予 防支援	自機関	62	61	50	41	28	29	873
	委託	42	35	36	33	26	19	553
	合計	104	96	86	74	54	48	1,426
介護予 防ケア マネジ メント	自機関	43	52	55	53	67	69	429
	委託	23	28	29	35	40	50	250
	合計	66	80	84	88	107	119	679

(介護予防支援前年度合計：2,289 件)

2. 任意事業

(1) ケアプラン点検事業

紀北広域連合主催のケアプラン点検事業に主任介護支援専門員(2名)が4回
参加した。

(2) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神負担の軽減と介護者同士の情報の交換

を目的にした交流会及び介護技術講習会等を開催した。

① 介護者の会の開催

平成 29 年度 101 名

	開催日	参加 人数	内容
第 1 回	5 月 25 日	4 名	認知症高齢者等を介護する介護者に対する相談及び交流会 講師：濱口 敦子氏
第 2 回	6 月 29 日	9 名	おしゃべり会 ランチとゲーム、交流会
第 3 回	7 月 27 日	6 名	フラワーアレンジメント講座・交流会 講師：川端 章子 様（池坊 正教授）
第 4 回	10 月 19 日	11 名	おしゃべり会 ランチと交流会
第 5 回	11 月 30 日	15 名	椅子に座って出来るヨガ、指ヨガ、笑いヨガ、 アロマの効用について講話 講師 木許 祐美代 様（ヨガ講師）
第 6 回	12 月 21 日	14 名	要介護者向け食事の調理実習 講師：小川 早知子氏
第 7 回	1 月 18 日	10 名	認知症高齢者等を介護する介護者に対する相談及び交流会 講師：濱口 敦子氏
第 8 回	3 月 1 日	32 名	介護方法（実技）講習会 講師：ユマニテク福祉大学 伊藤 幾代氏

（前年度参加人数：80 名）



（椅子に座って出来るヨガ講習会での様子）



（ランチ交流会での様子）

② 福祉用具の利用支援

福祉用具の利用についての助言や購入支援を行った。

福祉用具購入支援者 平成 29 年度 10 名 前年度 12 名

③ 住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成を行った。

住宅改修利用支援 平成 29 年度 37 名 前年度 39 名

3. その他

(1) 研修会への参加

- ・ 各専門職に対する研修会等

(2) 会議への参加

- ・ 地域包括支援センター運営協議会
- ・ 三重県地域包括支援センター連絡会議
- ・ 運営推進会議
 - ◇ 地域密着型小規模特別養護老人ホーム :2カ所
 - ◇ 認知症対応型共同生活介護 :7カ所
 - ◇ 地域密着型通所介護事業所 :6カ所
- ・ 在宅医療介護連絡協議会
- ・ 養護老人ホーム入所判定委員会

(3) 新しい包括支援事業実施に向けた作業部会への参画

- ・ 在宅医療介護連携推進
- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業
- ・ 認知症施策の推進

(4) 定例ミーティングの実施（地域包括支援センター内での打合わせ）

- ・ 各自担当ケースについての報告・相談
- ・ 新規相談ケースについての検討会
- ・ 各事業の進捗状況の確認及び調整

3. 紀北地域障がい者総合相談支援センター

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 相談支援事業

地域で安心できる生活を継続し、障がいの有無により分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行う。また、障がい者のライフステージに応じた地域生活を支援するために、福祉サービスの利用援助を身近な地域で行う。

平成 29 年度の相談者実数は 338 人であった。支援内容については、福祉サービスの利用に関する支援が多い。特定相談支援事業により担当の相談支援専門員がきめ細やかな支援を行う中で、自分の意向や希望する生活を実現するためにサービスについて詳しく知りたい方が増えているためと思われる。就業・生活支援事業が周知されことで就労に関する相談は直接、就業・生活支援センターに連絡することが多くなっており、地域生活支援事業での相談は減っている。すぐに就労につながらないケースについては、市町委託の基幹型支援センターと就労・生活支援センターそれぞれの担当が共有して支援を行っている。家計に関する相談も増加している。金銭管理が上手くできず生活に支障が生じるケースが多く、独居の方や家族の協力が得られない方の今後の支援体制も課題となる。また不安の解消や情緒安定に関する支援も多く、特に精神障がいの方については地域資源が少ない地域であり支援センターでの電話相談が有効な支援方法の一つとなっている。

① 障がい別 年間相談者実数（児・者）

（単位：人）

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
尾鷲市	182	29	4	76	54	17	0	2
紀北町	156	15	2	82	41	14	0	2
計	338	44	6	158	95	31	0	4

② 支援方法別 相談延べ件数

(単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	関係 機関	個別支援 会議	その 他	計
尾鷲市	1,160	668	124	1,148	5	482	217	524	4,328
紀北町	1,010	327	66	956	48	298	180	218	3,103
計	2,170	995	190	2,104	53	780	397	742	7,431

③ 支援内容（延べ件数）

(単位：件)

内容	延べ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	3,476	2,042	1,434
障害者症状の理解に関する支援	177	91	86
健康・医療に関する支援	471	278	193
不安の解消・情緒安定に関する支援	531	221	310
保育・教育に関する支援	920	629	291
家族関係・人間関係に関する支援	222	108	114
家計・経済に関する支援	177	73	104
生活技術に関する支援	88	77	11
就労に関する支援	268	109	159
社会参加・余暇活動に関する支援	557	342	215
権利擁護に関する支援	14	9	5
その他	530	349	181
計	7,431	4,328	3,103

(2) 紀北地域協議会の運営支援

平成 29 年度は、第 4 期紀北地域障がい者福祉計画及び第 5 期尾鷲市・紀北町障がい福祉計画の策定年であり、現計画の総括を行った。部会は、こころ部会、就労部会、相談部会を実施した。各部会年 3 回開催しそれぞれ年間テーマを決め活動を行った。圏域研修は意思決定支援をテーマに開催した。これは、厚生労働省から意思決定支援ガイドラインが示されたこともあり、意思決定に困難を抱える障がい者が自分自身がしたいと思う意思が反映された生活を送ることが可能になるように、支援者が取り組む視点を学ぶためである。平成 20 年度から取り組んでいる防災については「防災意識を高める」をテーマに 2 回開催した。

平成 29 年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容
こころ部会	テーマ：「地域移行、地域定着について」 圏域研修の開催 在宅援護事業の継続実施と考察 サロン活動への保健師、栄養士の参加 地域移行ケースによる事例研究
就労部会	テーマ：「福祉施設から一般就労への移行」 事業所見学会の実施（圏域内の就労継続支援 B 型事業所 4 ヶ所・ 就労継続支援 A 型事業所 1 ヶ所） 延べ 63 人参加 見学会の考察。現在の就労状況と課題の整理 福祉計画策定のための地域座談会 農福連携や人材派遣型就労の検討
相談部会	テーマ「地域居住の場の創設」 新設のグループホーム事業者との意見交換会 地域のグループホーム見学と意見交換会 新設のグループホーム内覧会への参加

平成 29 年度 圏域研修

(単位：人)

研修名	講師	参加人数
意思決定支援 本人の意思を中心に捉えるために	社会福祉法人 名張育成会 常務理事 市川 知恵子 氏	35



平成 29 年度 避難訓練

平成 29 年度テーマ 「防災意識を高めよう」

(単位：人)

開催日・場所	内 容	参加人数
平成 29 年 5 月 20 日 尾鷲市	防災アニメ DVD 鑑賞 防災カルタを使用し楽しみながら防災について学ぶ	当事者、家族 16 支援者等 6
平成 30 年 3 月 5 日 紀北町	地震時の初期対応と注意すること 紀北町長島地区の福祉避難所見学	当事者 9 支援者、ボランティア 11



(3) ピアサポーター活動支援

「体験を共有し、ともに考える」を基本とするピア活動の体制作りを行った。平成 29 年度は尾鷲市林町会館と紀伊長島保健センターで、月 2 回行う「すずらんサロン（日中の居場所作り）」を中心に活動した。サロンには述べ 95 人が参加した。サロンには市町の保健師、栄養士に協力してもらい、健康、栄養指導などセルフヘルプ支援も行った。また、社会生活の機会が少ない障がい者が社会との接点や体験の機会を持つために、自分たちで計画をたて外出活動を行った。延べ人数で尾鷲市 80 人、紀北町 21 人、合計で 101 人の参加であった。



29 年度から尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援を担当した。三重県障害者団体連合会との話し合いや総会、親睦交流会を行った。

2. 障害者就業・生活支援センター事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業では、障がい者の雇用の安定や実習先の開拓に取り組んだ。一般就労 15 人、雇用契約を結ぶ就労継続支援 A 型事業所 1 人、職場実習 11 人の実績があった。

一般就労を希望する障がい者の方々の就労先が少ないのは変わらないが、初めて障がい者雇用を行った企業や複数人の雇用をしてくれる企業も出てきている。就業・生活支援センターがスタートから関わり就労したケースについては定着率も良好であるが、自分で職場を見つけ就労したり、クローズでの就労については離職が多い現状であり、定着支援の難しさを感じる。定着につなげるために、在職者を中心として交流会（ワークわくわく）を 4 回開催し、仕事の悩みを共有したり、必要な知識やマナーを身につける機会をもった。

圏域にできた就労移行支援事業所が 2 年目となり初めての就職者を出したこともあり、今年度は就労移行支援事業所との連携をより強化することができた。関係機関との連絡会議では障がい者雇用への理解を広げることも重要であるが地域特性を活かした農福連携や水福連携についても検討課題とされている。

就労登録者 (単位：人)

登録者数	新規 18	継続 145	合計 163
内訳 身体障がい	4	19	23
知的障がい	5	82	87
精神障がい	8	40	48
その他	1	4	5

平成 29 年度の就労実績 (単位：人)

障がい種別 1 週間の 勤務時間数	身体	知的	精神	その他	計
一般（30 時間以上）	5	4	2	0	11
20 時間以上 30 時間未満	0	1	3	0	4
20 時間未満	0	0	0	0	0
計	5	5	5	0	15

市町別一般就労実績

(単位：人)

区分		合計	(内訳)			
			身体	知的	精神	その他（発達）
圏域合計		15	5	5	5	0
内 訳	尾鷲	9	3	4	2	0
	紀北	6	2	1	3	0

相談支援件数（内容別）

(単位：件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	57	291	350	339	1,037
職場定着の為の相談支援	89	181	271	45	586
日常生活に関する相談支援	18	743	150	307	1,218
就業と生活に関する相談支援	16	138	79	84	317
計	180	1,353	850	775	3,158

相談支援件数（手段別）

(単位：件)

センターへの来所（本人のほか、家族等も含む）	250
電話・ファックス・E-mail 等	1,340
職場訪問（定着支援のほか、職場実習支援を含む）	135
家庭・入所施設への訪問	94
その他（ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等）	1,339
計	3,158

平成 29 年度 在職者交流会（ワークわくわく）

（単位：人）

開催日	内容	参加人数
第 1 回 平成 29 年 7 月 8 日	接遇（挨拶・マナー）について勉強しよう	13
第 2 回 平成 29 年 11 月 4 日	食を考える	8
第 3 回 平成 29 年 12 月 9 日	地域の人に自分達のことを知ってもらおう	13
第 4 回 平成 30 年 3 月 24 日	防災について考える～職場で災害にあったら～ 今年度の仕事の振り返り	8



3. 障がい児等療育相談支援事業

(1) 療育相談

療育の専門相談機関としての役割を持ち、地域で暮らす障がい児や家族の相談支援を行った。加配保育士への指導、特別支援サークルの支援参加等、保育園との連携を充実させた。また個別支援会議や関係機関参加によるカンファレンスを行い丁寧な支援を行った。昨年度に引き続き動作法体験研修を定期的に開催した。

登録者

（単位：人）

登録者数	125
内訳 身体障がい	3
知的障がい	22
精神障がい	0
その他	100

相談支援の内容

活動内容	延べ件数	実人数
電話	95	34
来所	113	34
訪問	107	30
ケア会議	40	22
助言・利用調整	118	18
その他（重度心身障害者相談事業・親子の会）	52	17
計	525	155

(2) 療育指導（すまいる教室）

療育教室（すまいる教室）の指導や助言を行い、障がい児や発達の気になる子どもに小グループによる支援を行った。6 グループに分け各グループ月 2 ～4 回、交流会を年 2 回行った。親子参加を基本とし保護者の孤立を防ぎ相談や交流の機会とした。社会資源が少ない地域の障がい児に専門職による専門療育の機会の提供として言語療法士による指導を月 2 回、「風の広場」による専門療育指導（言語療法士）を年 4 回行った。また保護者や支援者に向けての学習会として、言語聴覚士による「ことばのおはなし」を開催した。

参加状況

区分	実人数	延べ人数
尾鷲市	29	469
紀北町	14	196
計	43	665

(3) 支援ネットワークの構築

乳児健診委員会での支援対象児の把握や紀北町の 5 歳児健診への参加協力、草の実健診への協力、特別支援学級担任、介助員の研修指導も行い、紀北地域におけるとぎれない支援の体制作りと関係機関との連携強化に努めた。

4. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) 音楽教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。「癒やしの会」主催で音楽療法士福田先生に依頼して実施。

開催 12 回 延べ参加人数 120 人（尾鷲市 77 人 紀北町 43 人）

(2) フラワーアレンジメント教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比佐子氏

開催 12 回 延べ参加人数 191 人（尾鷲市 95 人 紀北町 96 人）

(3) 歩行訓練

視覚障がい者に対して歩行訓練やパソコン・点字の指導を行う。

開催 12 回 視覚障がい者 4 人 延べ参加人数 27 人

(4) おもちゃ図書館

障がい児等の遊び場の提供や交流の場として実施。開催 12 回

(5) はあと畑

毎週月曜日、会員の昼食を作り、尾鷲市福祉保健センター1 階ロビーを利用し、障がいのあるメンバーが接客を行いながら就労体験をする。38 回開催

(6) 尾鷲市ふれあいスポレク祭 2017 の開催

平成 29 年 10 月 14 日開催

障がい者 64 人 ボランティア 15 団体 57 人

福祉協力校 7 校 47 人 その他 51 人 合計 219 人

(7) その他

紀北町のスポーツ大会、紀北町の生活交流会、くろしお学園おわせ分校運動会、学習発表会等に参加した。



5. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成を行った。本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行った。

特定相談支援 障害児相談支援 (単位：件)

	利用計画	継続支援
尾鷲市	104	318
紀北町	79	152
圏域外	2	4
計	185	474

支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	その他	計
尾鷲市	731	203	39	605	107	1,685
紀北町	680	57	28	381	71	1,217
計	1,411	260	67	986	178	2,902

6. 日中一時支援事業

学校の夏休み、冬休み、春休みにおいて家庭外の居場所が必要な障がい児に対して日中一時サービスとして預かり保育を行った。

延べ人数 49 人 (実人数 尾鷲市 6 人 紀北町 1 人)

Ⅲ. 介護サービス部門

1. 介護事務

本年度より、介護サービス部門５事業所の総合的な調整および請求事務の管理部署として設置され、効率的な事務と効果的な調整を行った。また、平成２９年度より始まる介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の開始に向けた情報収集と各事業所の申請手続きを実施した。

1. 介護事業所の運営・管理

- (1) 介護事業所職員の労務管理に努めた。また、法人本部および輪内高齢者サービスセンターとの連絡・調整を行った。
- (2) 介護職員処遇改善加算を取得することで、職員の賃金改善を実施した。また、職員研修を企画し職員のスキルアップに努めた。

2. 介護保険等請求事務

国保連、尾鷲市への保険請求、利用者への利用料の管理を実施した。

3. 介護保険法改正への対応

介護予防給付のうち、介護予防訪問介護と介護予防通所介護が総合事業に移行するにあたり、情報収集に努め、各管理者とともに申請手続きを円滑に進めた。

2. 居宅介護支援事業所

介護保険の指定居宅介護支援事業所として、利用者、家族の意向に沿ったケアプランとなるよう、質の高いアセスメントを行うことに努めた。サービス担当者会議での決定内容を十分に確認し、利用者の意思や人権を尊重したサービス提供が出来るよう心がけ、安心して在宅生活が継続できるように支援を行った。

1. 業務内容

- ・ 居宅サービス計画（ケアプラン）・介護予防サービス支援計画の作成
- ・ 利用者、サービス事業者との連絡調整
- ・ サービス担当者会議の開催
- ・ 居宅、介護予防サービス計画の実施把握
- ・ 他職種との連携
- ・ 介護保険外の福祉サービスや福祉制度の利用援助
- ・ 介護保険施設への紹介
- ・ 国保連への給付管理
- ・ その他の苦情や問い合わせ

2. 受託事業

- ・ 介護保険要介護認定調査
市外、県外の保険者より委託を受け、介護認定調査を行った。（10件）
- ・ ケアプラン点検事業
紀北広域連合主催のケアプラン点検事業に、主任介護専門員を参加させた。

3. 住宅改修支援事業請求実績

（単位：人）

事業名	平成 29 年度	前年度
住宅改修支援事業	1	1

4. 居宅サービス計画依頼実績

(単位：人)

	平成 29 年度	前年度
居宅新規	56	59
居宅終了	63	51
※内訳 (死亡)	26	26
(入所)	26	13
(移動)	11	12
予防給付 新規	2	6

5. 月別請求額

◇居宅介護

(単位：人・円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数	186	182	177	186	184	182
収入額	2,868,730	2,819,050	2,715,840	2,895,390	2,835,220	2,832,600

1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
182	175	182	176	159	163	2,134
2,831,600	2,700,110	2,839,930	2,727,750	2,443,840	2,530,290	33,040,350

(前年度) 利用者人数 2,137 人 収入額 33,022 千円

◇介護予防支援費

(単位：人・円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数	8	9	8	6	9	7
収入額	34,400	38,700	34,400	25,800	38,700	30,100

1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
6	5	4	6	4	3	75
25,800	21,500	17,200	25,800	17,200	12,900	322,500

(前年度) 利用者人数 150 人 収入額 660 千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位：人・円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数			1	1	1	2
収入額			4,300	4,300	4,300	8,600

1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
3	4	3	4	3	7	29
12,900	17,200	12,900	17,200	12,900	30,100	124,700

(前年度) なし

6. 実習生受入れ

介護支援専門員資格取得の為の実習生を2名受入れ、実習指導を実施した。

7. ケアマネジメントの質の向上を図る

- ① 週1回 居宅事務所内でのミーティングを実施
 - ・ サービス提供にあたっての留意事項
 - ・ 困難事例ケース検討等
- ② 居宅介護支援連絡会や外部研修会へ参加し、ケアマネージャーとしての意識向上、援助技術のスキルアップを行った。



(ミーティングの様子)

3. 訪問介護事業所

「いつまでも自宅で過ごしたい」との思いに応えられるよう、ホームヘルパーが自宅を訪問し、日常生活上必要な支援を行った。本年度も特定事業所加算、処遇改善加算取得事業所にふさわしい事業所となるよう、ヘルパー個別の研修計画を立て、研修終了後も復習会を設けることで、職員のスキルアップに繋げた。また災害対策を職員と話し合い、事業所に震災対策のフィルムを施した。



(防災活動・飛散防止フィルム貼り)

1. 訪問介護・介護予防訪問介護事業 (介護保険)

介護等が必要な方を対象に、自宅にホームヘルパーが訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供した。全体（要介護者及び要支援者）での年間利用人数は増加したが、総合事業移行等に伴い収入額は減少した。

(1) サービス内容

- ・ 身体介護：食事介助、入浴介助、排泄介助、体位変換、通院介助、その他の身体介護
- ・ 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- ・ 身体介護と生活援助の組み合わせ
- ・ 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	87	89	92	94	92	84
収入額	3,853,030	4,131,290	4,120,730	3,981,110	3,661,720	3,452,010

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
90	86	85	83	74	86	1,042
3,915,190	3,703,470	3,750,380	3,456,320	3,068,100	4,082,940	45,176,290

(前年度) 利用者人数 1,018人 収入額 47,500千円

◇介護予防訪問介護、総合事業月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	32	33	29	28	31	32
収入額	564,310	555,690	490,410	461,370	530,040	516,190

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
30	30	31	31	28	28	363
467,390	431,910	475,790	432,380	368,990	345,540	5,640,010

(前年度) 利用者人数 357 人 収入額 6,097 千円

2. 障害者総合支援事業

(1) 障害福祉サービス

障害福祉サービスの提供を障害者総合支援法に基づき行った。居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援及び在宅援護の各事業を実施した結果、新規利用者があり、利用人数、収入額とも増加した。

◇月別単位数（実績月）

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	39	41	37	39	39	38
収入額	1,647,840	1,480,870	1,518,350	1,559,550	1,570,650	1,594,750

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
41	41	44	42	39	39	479
1,699,170	1,612,480	1,632,650	1,514,140	1,467,360	1,430,780	18,728,590

(前年度) 利用者人数 449 人 収入額 18,390 千円

3. 生活支援サービス「あんしん」（保険外サービス）と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を訪問系サービスの介護保険外事業の一環として行った。またケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	12	16	11	13	18	13
収入額	33,100	44,600	42,900	66,600	57,000	36,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	14	14	13	10	13	157
38,000	60,300	51,300	49,900	28,300	42,700	551,300

(前年度) 利用者人数 177 人 収入額 437 千円

◇運行利用料月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	89	93	93	99	95	84
収入額	167,870	211,450	194,150	221,020	216,670	178,480

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
93	87	90	84	73	89	1,069
236,730	274,540	234,490	235,020	186,850	255,860	2,613,130

(前年度) 利用者人数 1,040 人 収入額 2,092 千円

4. 研修会等参加状況

(単位：人)

研修名	参加人数
福祉有償運送運転者・セダン等運転者初任者講習	1
理学療法士に学ぶ介護技術研修	19
意思決定支援研修	2
認知症研修会	2
感染症勉強会	10
赤十字救急法・救急員養成講習	1
同行援護従業者養成研修一般課程	1
地震・津波対応研修会	7
災害ボランティアコーディネーター養成講座	1
認知症サポーター養成講座	4
新任ヘルパー実技研修会	6
簡単クッキング	3
交通安全講習会	29
職員心得研修会	9
普通救命講習	22



(初任者運転者講習の復習会)



(理学療法士に学ぶ介護技術)

4. 訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴（介護保険）

市内唯一の訪問入浴事業所として、看護職員や介護職員2名、運転手による、4人体制で、住み慣れた自宅で、在宅生活を継続できるように、身体状況に応じた安全で快適入浴サービスを提供した。新規利用があるも、施設入所待ちの利用など短期的な利用のため、安定した収益に繋がらなかった。

(1) サービス内容

- ① 看護師による健康チェック ② 衣類の脱着
- ③ 浴槽への安全な移動介助 ④ 入浴介助

(2) 訪問入浴の利点

- ① 身体への負担が少ない
- ② 温浴によるリハビリ効果、褥瘡の改善
- ③ 看護師の指示による手厚い入浴介護
- ④ 徹底した感染症対策



（高台の利用者への浴槽搬入）

(3) 利用者ニーズ

- ① 高台に住居がある。浴室の形状など、生活環境に課題を抱えている。
- ② 身体的負担からデイサービスの利用が困難である。
- ③ 利用者、家族も自宅での生活を望んでいる。

◇訪問入浴介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	10	10	12	14	11	12
収入額	438,480	488,600	613,330	600,480	780,500	767,630

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	10	11	10	8	10	130
754,770	655,760	651,910	613,340	540,050	668,600	7,573,450

（前年度） 利用者人数 132人 収入額 9,296千円

5. 尾鷲通所介護事業所 （デイサービスいきいき）

1. 通所介護・介護予防通所介護・総合事業（介護保険）

(1) 通所介護・介護予防通所介護・総合事業

住み慣れた自宅での、自立した生活を送るために必要な運動機能の向上を目的に体操・レクレーションを中心としたサービスを提供した。介護保険法改正により、本年より介護予防通所介護が、総合事業（みなし）と総合事業サービスAに移行した。職員不足など体制が整わず、新規利用者の受け入れが出来なかったことで減収となった。

① サービス内容

〈共通サービス〉

- ・ 体操・レクレーション
- ・ 身体介護・支援に関すること（移動介助・見守りなど）
- ・ 日常生活の相談・助言

〈選択的サービス〉

- ・ 個別機能訓練サービス・・・通所介護
- ・ 運動器機能向上サービス・・・介護予防通所介護/総合事業（みなし）
- ・ 入浴サービス・・・・・・・・通所介護
- ・ 足浴サービス・・・通所介護・介護予防通所介護/総合事業（みなし）



（機能向上を目指した体操）



（足浴サービス）

◇地域密着型通所介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	22	22	24	19	20	21
収入額	732,820	739,970	884,680	777,670	740,770	671,040

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	20	21	21	20	21	251
749,700	699,270	692,660	652,790	702,280	731,400	8,775,050

（前年度） 利用者人数 265人 収入額 8,945千円

◇介護予防通所介護＋総合事業 月別実績 (単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	21	23	23	18	20	20
収入額	646,676	683,610	620,740	515,610	528,310	492,950

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	13	12	13	8	11	199
401,300	324,850	268,808	269,670	176,110	267,600	5,196,234

(前年度) 利用者人数 261人 収入額 7,662千円

2. 一般介護予防事業（受託事業）

(1) 一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受けて、市内在住で65才以上の人を対象に介護予防に対する啓発に努め、自宅でも気軽に出来る体操などを指導した。

(単位：回・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	18	18	16	13	12	13
収入額	451,400	450,400	400,000	325,000	300,000	326,800

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	12	11	10	12	13	162
352,000	302,400	276,800	251,600	301,200	327,200	4,064,800

(前年度) 一次予防事業 151回 収入額 3,765千円

3. その他

(1) 地域密着推進会議の開催

開催日 : 平成29年9月21日・平成30年3月20日

出席者 : 運営推進委員、利用者家族、関係機関

内容 : 利用実績報告、介護保険制度の説明、デイサービス見学

(2) いきいき新年会の開催

開催日 : 平成30年1月17日

参加者 : デイサービス利用者及びボランティアほか 72人

内容 : 第三保育園児との交流、オカリナ演奏、手遊び体操

6. 輪内通所介護事業所

要支援・要介護状態となった場合でも、自立した日常生活を送ることができるよう、障がい者も含めて日常生活上の世話や機能訓練を行うとともに、引きこもり予防や社会参加および介護をしている家族の負担軽減を図るために通所介護を実施した。



1. 通所介護・介護予防通所介護事業（介護保険）・総合事業（地域支援事業）

《サービス内容》

- ・入浴サービス（機械浴、一人浴、一般浴）
- ・送迎サービス
- ・生活指導 ・健康チェック ・レクリエーション ・創作活動
- ・運動器機能向上（個別機能訓練）サービス
- ・食事の提供

（月別実績）

【地域密着型通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	34人	30人	31人	30人	29人	31人
収入額	¥2,842,640	¥2,952,340	¥2,661,530	¥2,858,220	¥2,718,710	¥2,629,350

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31人	26人	26人	23人	24人	21人	336人
¥2,363,790	¥2,347,850	¥2,291,770	¥1,944,300	¥1,969,840	¥1,982,450	¥29,562,790

【支援+介護予防・日常生活支援総合事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	8人	9人	10人	7人	5人	5人
収入額	¥223,110	¥261,020	¥283,460	¥201,580	¥141,230	¥115,490

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6人	8人	6人	8人	8人	9人	89人
¥154,810	¥190,427	¥135,883	¥215,160	¥213,940	¥315,360	¥2,451,470

【障がい】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	3人	3人	4人	4人	5人	4人
収入額	¥128,240	¥121,120	¥178,110	¥170,980	¥163,860	¥175,963

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4人	5人	5人	4人	4人	4人	49人
¥155,315	¥163,138	¥190,223	¥90,473	¥98,325	¥112,565	¥1,748,312

(前年度)	利用件数	収入額
地域密着型通所介護	351 名	27,418 千円
介護予防通所介護	118 名	3,135 千円
障がい者通所介護	35 名	1,603 千円

2. 一般介護予防事業

尾鷲市から委託を受けて一般介護予防（にこにこ教室）として、市内在住で65歳以上の高齢者向けの介護予防に向けた取組が主体的に実施されるような地域社会の構築を目指し、要介護状態・要支援状態にはないが、そのおそれがある高齢者向けの要介護にならないことを目的とした通所型介護予防事業（運動器機能向上・うつ・閉じこもり・認知症予防を目的）の委託を受け、介護予防を実施し普及啓発に努めた。

（月別請求額）

【一般介護予防】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	10	11	12	8	6	10
収入額	¥250,000	¥275,000	¥300,000	¥200,000	¥150,000	¥250,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	10	7	5	8	8	103
¥200,000	¥250,000	¥175,000	¥125,000	¥200,000	¥200,000	¥2,575,000

(前年度)	開催数	収入額
一次予防	150 回	3,750 千円

一般介護予防事業について、地域住民からの要望を受け、尾鷲市福祉保健課と協議の上、週3回実施し、安心して地域住民が住み慣れた我が地域で生活ができるよう、その一翼を担うことに繋げた通所介護事業の使命が達成できた。

IV. 輪内高齢者サービスセンター

1. 輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉の向上を図るため、次のような事業を行った。

(1) 社協業務の受付窓口としての機能

- ① 福祉相談窓口業務として相談を受け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。
- ② 輪内地区における募金事業の窓口として事業を推進した。

5月 日赤募金 10月 共同募金

(2) 台風接近による高齢者サービスセンター避難所開設回数 無し

(3) 施設の適正な管理・運営

2. 輪内地区食の自立支援事業（市委託事業）

生活支援型配食サービスとして、週3回（火、木、土）、「食事を作ることが困難な高齢者」を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	輪内地域 (梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	34 名
延べ配食数	4,350 食
事業費	2,653,800 円
(うち市委託分)	(913,800 円)

地区別登録者内訳

(梶賀 2、曾根 5、賀田 9、古江 13、三木里 2、三木浦 3)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

食事を作ることが困難で、市の配食サービスの対象とならない 65 歳未満の方が同居の住民に対して自主事業としての配食サービスを実施した。南輪内、北輪内の全ての地区において年間 246 食の配食を行った。

